

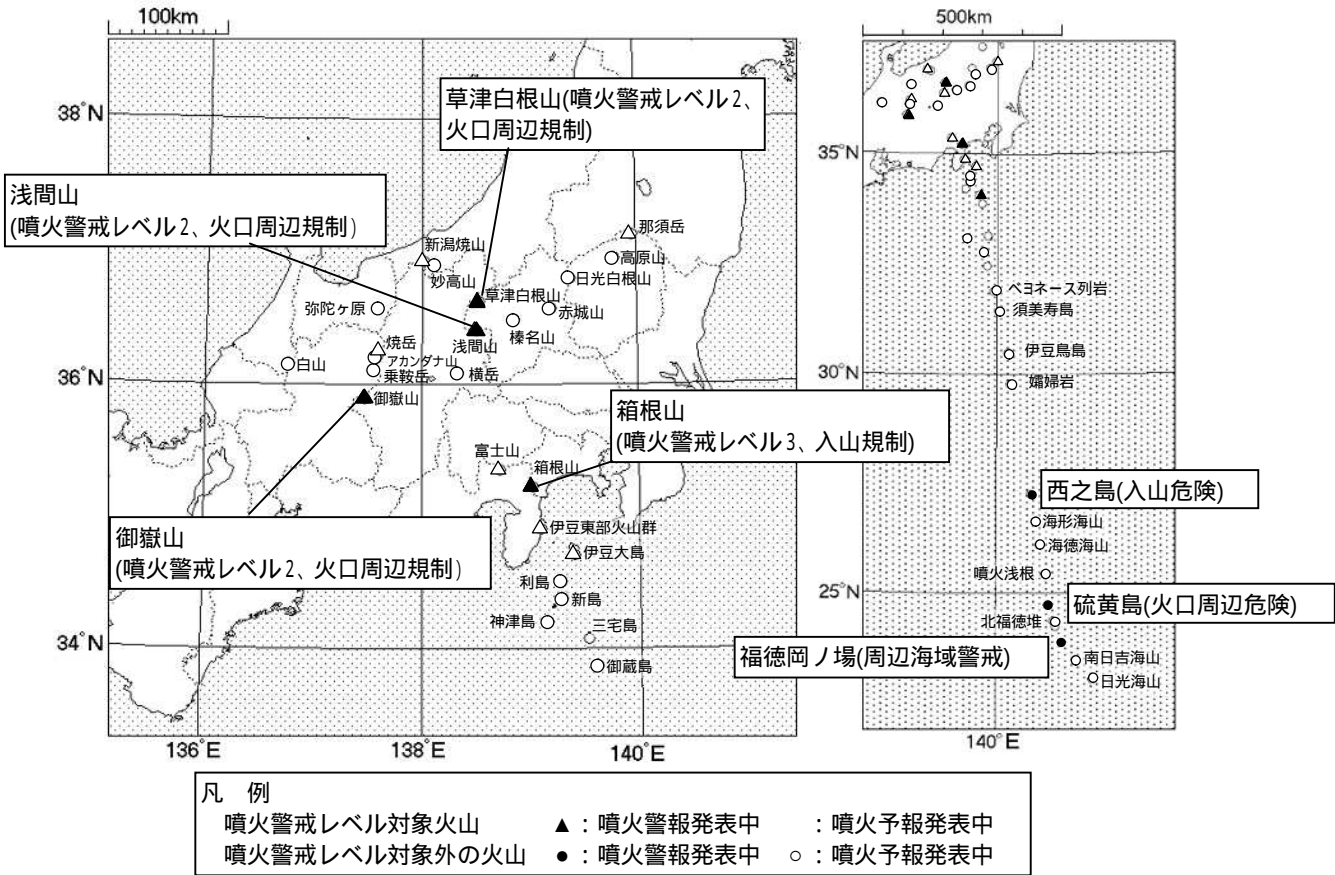
管内月間火山概況（平成 27 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（7 月 31 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	箱根山
	レベル 2（火口周辺規制）	草津白根山、浅間山、御嶽山
	入山危険	西之島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	那須岳、新潟焼山、焼岳、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島
	活火山であることに留意	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、アカングナ山、乗鞍岳、白山、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中です。



* 噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 27 年 8 月分）は平成 27 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、関東地方整備局、中部地方整備局、国土地理院、海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都、新潟県、長野県、岐阜県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

那須岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

日光白根山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しました。2014 年 8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過していますが、2015 年 1 月以降一時的な火山性地震の増加もみられています。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められていましたが、2015 年 4 月頃より鈍化しています。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられています。一方、全磁力観測による 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、2014 年 7 月以降停滞しています。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

浅間山では、6 月 19 日の噴火以降、噴火は観測されていません。

山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は多い状態が続いています。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過しています。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

新潟焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

弥陀ヶ原〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

焼岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

乗鞍岳〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

御嶽山では、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。

19 日から 20 日にかけて一時的に火山性地震が増加し、短時間の火山性微動が観測されました。その後の観測データに火山活動の高まりを示す変化はみられていませんが、弱いながらも噴煙活動や地震活動

が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

白山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

富士山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。その後、地震活動は低下してきています。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはありません。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

箱根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

箱根山の火山活動は活発な状態で経過しています。

7 月 1 日 05 時頃に遠望カメラにわずかに火山灰の付着が認められたことから、6 月 30 日から 7 月 1 日にかけてごく小規模な噴火が発生したとみられます。

今後も小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺の概ね 1 km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また、風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

伊豆東部火山群〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

伊豆大島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

GNSS¹⁾連続観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いています。2011 年頃から鈍化していましたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられます。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

新島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

神津島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

三宅島〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。また、火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過しています。

火口内では噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内及び主火口から 500m 以内では火山灰噴出に警戒してください。また、火山ガスの放出が継続していることから、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとする予想される地域では警戒してください。

八丈島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

青ヶ島〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いています。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられます。また、西

之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ²⁾等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがありますので、西之島の中心から概ね 4 km 以内では噴火に警戒してください。

硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報〕

火山性地震はやや少ない状態で経過しています。GNSS¹⁾連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年 3 月頃から隆起速度が上がっています。その他の観測データに特段の異常は認められません。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒してください。

福岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に警戒してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

2) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象で、人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険です。